

平成30年度 研修紀要

第32号

# 翠 松

知識・技能を身に付け活用できる生徒の育成

～習得した知識・技能を活用する場面や方法の工夫を通して～

沼田市立沼田東中学校

## 研究の概要

- 1 研究主題 **知識・技能を身に付け活用できる生徒の育成**  
—習得した知識・技能を活用する場面や方法の工夫を通して—

### 2 主題設定の理由

本校は、学校教育目標として「敬愛」「誠実」、生徒目標として「自発」「責任」「協力」「礼儀」を掲げ、指導の改善と充実を学校経営の重点の一つとし、確かな学力を身に付けさせることを目指している。

本校の生徒は、与えられた課題に真剣に取り組み、学習に対して意欲的である。そして、授業内容を理解する力のある生徒が多い。その反面、基礎的・基本的な知識・技能の定着には個人差がある。さらに、学習内容を深く追究しようとする姿勢が十分でなく、学んできたことを効果的に活用することが苦手な生徒が多い。また、知識や技能の定着が不十分なため、学習内容をより深く追究する場面で、表面的な活動になってしまったり、学習内容の理解に深まりがみられない。

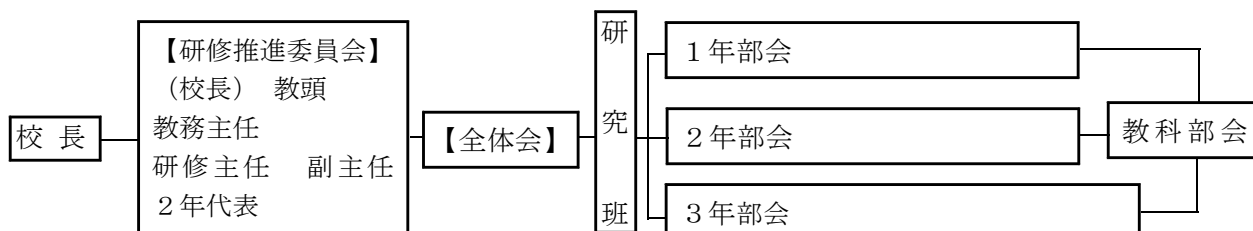
昨年度までは、各教科で、「協同的な学び」に焦点を当て「思考力・判断力・表現力の向上」を図り、「振り返り」を行い学習内容の定着を図ってきた。その中で、「協同的な学び」により、自他の考えの類似点や相違点を比較させ、多様な考え方に触れられるようにしてきたが、その考えを練り上げ、効果的に活用する場を設定する必要があった。また、「振り返り」活動をより意識させ、個に応じた指導を充実させる必要があった。そこで、学びを深めるためには、課題の設定や提示、課題解決的な学習過程の工夫等、知識・技能を習得させ活用する手立てが必要であると考えた。

### 3 研究の内容

#### (1) 研修のねらい

知識・技能を活用している姿を明確にし、活用を図れるような課題設定や場面・方法の工夫を通して授業改善を進め、知識・技能を身に付け活用できる生徒の育成を目指す。

#### (2) 研究組織



#### (3) 研究の経過

1 学期	○校内研修の主題・副主題について検討を行い、今年度の方向性を決定 ○目指す生徒像の全体像の確認、各教科における生徒像の検討 ○研修計画書の作成・確認 ○公開授業の指導案の形式の確認 ○公開授業の計画、及び授業研究会のもち方を全体で確認 ○公開授業の実践及び授業研究会 ○指導主事訪問Aを受け、研修の方向性についての見直し
2 学期	○公開授業の実践及び授業研究会 ○指導主事訪問B「社会」に向けた指導案及び授業内容についての検討 ○指導主事訪問Bを受け、研修の成果と課題の確認及び今後の取組についての確認 ○実践のまとめと研究紀要の原稿執筆の形式の確認
3 学期	○今年度の研修のまとめと反省 ○来年度の校内研修の方向性について検討

#### (4) 研究の概要

##### ① 研修の内容と方法

###### ア 目指す生徒像の実現に向けた取組

- ・各教科部会等で、目指す生徒像の設定と見直しを行う。
- ・授業改善の視点を明確にし、一人一公開授業を行い、授業参観と授業研究会を実施することで授業力の向上を図る。

###### イ 知識・技能を身に付けさせるための取組

- ・生徒の実態調査や学校評価アンケート、授業での見取り等を通して、生徒の実態と変容をとらえ個に応じた手立てを行う。
- ・反復練習や比較し気付かせる活動等、身に付けさせたい知識や技能に応じた手立てと、振り返りにより習熟を図る。
- ・学校生活ガイドブック「学習の手引き」の見直しを行い、自主学習を中心とした家庭学習の充実を図る。

###### ウ 活用のための取組

- ・単元構想や単位時間の中など、課題解決的な学習過程の設定の工夫を行う。
- ・課題設定や課題提示等の工夫を行う。

##### ② 主な実践

月日	内 容		○研修の視点（上段） ・明らかになったこと（下段）
4. 24 5. 7	「研修主題、副主題、内容等の決定」 「公開授業に向けての確認」		○研修主題・副主題（ねらい、内容、方法）についての検討。 ・研修主題と研修副主題、生徒の実態とのかかわり、教職員の指導とのかかわり、研修のねらいについて教職員全体で検討し確認することで、本年度の研修の方向性を共通理解することができた。 ○内容、取組についての共通理解。 ・一人一公開授業に向け、検証のための「知識・技能を身に付けた生徒」の具体的な姿や、「習得した知識・技能」、「活用する場面や方法」について共通理解を図ることができた。
7. 9	3年 理科 「無性生殖と有性生殖の染色体の受け継がれ方」	研究授業	○無性生殖と有性生殖の染色体の受け継がれ方の違いについての考えを深めるために、既習事項（無性生殖も有性生殖も行う生物（イチゴ））を例に挙げて考える場面を設定し、全体で課題を共有したのち、個人→班→全体で意見交換したことは有効であったか。 ・イチゴを具体的な例として挙げて考えさせたことは有効であった。 ・教科書やノートなどを見返しながら考えるように声をかけたことで、学んだことを生かそうとしていた。
7. 19	1年 数学 「文字と式」	研究授業	○多様な計算方法が考えられる課題を設定し、同類項をまとめて確認する場面を設定したことは、文字式の有用性を考えさせる上で有効であったか。 ・難易度の高い問題であったため、知識を十分に活用することができた。 ・復習を授業の最初に取り入れたことで本時の活用に繋がった。
9. 12	1年 理科 「金属の性質・電導性」	研究授業	○アルミニウムや水銀について考えさせる課題を設定したことは、金属の特徴をより深く理解させる上で、効果的であったか。 ・意図的な発問により、活用に繋がり、金属についての深い理解に有効であった。 ・身近で金属として認識しにくい物を取り扱うことが、生徒に揺さぶりをかけ既習の知識を活用しやすくすることに繋がった。

9.20	2年保健体育 「バスケット ボール」	研究授業	<p>○バスケットボールにおける基本技能&lt;1対1の攻防・ボールパッシング&gt;をゲームの中で使えるようにするために、パスタックゲームを行ったことは有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本技能の習得→パスタックゲーム→ゲームにすることで、基礎→活用→その活用という形になり、より深めることができた。</li> <li>・活用を促す効果的な助言ができていた。</li> <li>・基本技能をゲームの中で活用するという意識を生徒がもてるような工夫が必要。</li> </ul>
9.25	3年 音楽 「歌い合わせる喜びと指揮～さまざまな曲想と表現の工夫～」	研究授業	<p>○「春に」の曲想の表現を工夫するために、スモールステップで発声練習・パート練習と練習を充実させ合唱を行ったことは有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発声練習時に大切なポイントを明確にすることで、活用に結び付けやすい。</li> </ul>
10.1	1年 社会 「古代までの日本・中世までの日本」	指導案検討	<p>○設定した生徒像に迫るための授業の視点「問題の解決に向けて、習得した知識や技能を用いることができる生徒」について。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時では、これまでの学習をもとに各時代の特色を大観させる。</li> <li>・単元構成と活用の場面設定の工夫を行う。</li> <li>・共通点と相違点などに着目させることにねらいを絞る。</li> </ul>
10.12	1年 社会 「古代までの日本」「中世までの日本」～飛鳥時代から鎌倉時代までの歴史の流れをとらえよう～	研究授業	<p>○既習事項を活用して各時代ごとにまとめたことをグループ内で話し合い、自分なりの視点で大観させたことは、生徒が歴史的事象の特色について考え、表現するのに有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史を大観させる単元設定が有効であった。</li> <li>・生徒が今までの学習内容や調べてきたことをもとに考え、説明し、まとめている姿が見られた。</li> <li>・事象を比較し、関連や原因を考えるなど、深い学びにつながった。</li> </ul>
10.26	1年 英語 「Daily Scene 2電話の会話」	研究授業	<p>○電話での会話という場面設定においてカレンダーを用いたり、会話で使う表現を黒板に提示したりしたことは、生徒の意欲を高め、既習事項を使って会話をするために有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書で学んだことを実際に使う場面を設定したことが有効であった。</li> </ul>
11.12	2年 数学 「いろいろな図形の角の大きさ」	研究授業	<p>○多様な考え方で説明できる課題を設定し、個人→班→全体で考えて意見交換したことは、図形を考察する力を高める上で有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習に必要な知識を授業の初めに確認することで、知識を活用する素地ができた。</li> <li>・プリントを回転させてみるなどの具体的な指示やヒントがあると、図形に含まれる形が見付きやすかった。</li> <li>・課題の難易度が高いため、追究する課題を絞っても良かった。</li> </ul>
11.21	2年 国語 「分析的に考える『動物園でできること』」	研究授業	<p>○三人の主張の「良い点」「悪い点」を交流し、それをもとに、三人の中から一人を選んで、反論の文章を書かせたことは、動物園のあり方について自分の考えを広げる上で有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人に絞らず、三人の意見の「良い点」「悪い点」を考えたことにより、それぞれの意見を出せ、思考の広がりにつながった。</li> </ul>

② 生徒のアンケートより

- ・「新しい課題に取り組むとき、今まで勉強した内容を使っていますか。」という質問に対して、「よく使っている」や「ときどき使っている」という肯定的な意見が、88%から96.4%と8.4ポイント増加した。特に「よく使っている」という意見で、8.4ポイントの増加が見られた。
- ・「少し難しい難題に対して、その課題を解決するためにどのように取り組んでいますか。」という質問に、既習事項の振り返りなど、自力解決の方法を試みる生徒が72.8%から90.4%と17.6ポイントの増加が見られた。
- ・「今学習していることが、これからの学習に生かせると思いますか。」という質問に対して、肯定的な意見が41.6%から51.8%と9.8ポイントの増加が見られた。

② 生徒のアンケートより

- ・「今学習していることが、これからの学習に生かせると思いますか。」という質問に対して、「思う」が50.4%から44.6%と5.4ポイント減少した。

## <実践編>

☆各教科における「目指す生徒像」

☆研究授業指導案

- ・国語
- ・社会
- ・数学
- ・理科
- ・英語
- ・音楽
- ・保健体育

## 目指す生徒像（平成30年度）

沼田東中学校

### 目指す生徒像の全体像

○問題の解決に向けて、習得した知識や技能を用いることができる生徒
----------------------------------

### 各教科における目指す生徒像

国 語	○課題について、習得した知識や技能を用いて、自分の考えを広げたり、深めたりしたことを表現することができる生徒
社 会	○課題の解決に向けて、習得した知識や技能を活用し、自分の考えや調べたことをわかりやすく表現したり、まとめたりできる生徒
数 学	○新たな課題に対し、数や式・図形の性質など既習事項を用い、演繹的や帰納的、仮説形式的に問題解決を行うことができる生徒
理 科	○課題について、習得した知識をもとにして予想を立て、習得した技能を使って観察・実験を行い、その結果から考察することができる生徒
英 語	○自分の考えや気持ちを、既習の語句や文を用いて、話したり、書いたりして表現することができる生徒
音 楽	○課題について、音楽を形作っている要素（音色、リズム、速度、強弱など）を言葉や演奏などで表現することができる生徒
美 術	
体 育	○自己や仲間の課題の解決に向けて、習得した知識や技能を学習場面に適用したり、応用したりすることができる生徒
技 ・ 家	
学 級 活 動	
道	
徳	
総 合	

場面や方法の工夫(視点)

三人の主張の「良い点」「悪い点」を交流し、それをもとに、三人の中から一人を選んで、反論の文章を書いたことは、動物園のあり方について自分の考えを広げる上で有効であったか。

テーマ 「分析的に考える『動物園でできること』」

本時のねらい

三人の主張の「良い点」と「悪い点」を交流し、反論を考えることで、動物園のあり方について自分の考えを広げることができる。(読む)

展開

学習活動	時間	学習への支援及び留意点
[課題提示] ・前時までの学習内容の確認 ＊三人の主張の確認 ・本時のめあてを確認する。	5	・前時で記入した付箋を確認させ、前時で自分がどんなことを考えたかを想起させる。
めあて：動物園のあり方について自分の考えを広げよう。		
[課題追究Ⅰ] ・三人の主張の「良い点」「悪い点」を交流する。(グループ)	5	・交流シートに付箋を貼りながら考えを交流させる。 ・他の人の考えに近い自分の考えがあったら、説明しながら一緒に出すよう伝える。 ・他の人の考えに疑問があったらその都度質問してよいことを伝える。
[課題追究Ⅱ] ・交流したことをもとに、三人の中から一人を選んで、反論の文章を書く。(200字程度)	35	・反論する人にあまりに偏りが出るようなら調整する。 ・相手の主張を的確に捉えた上で、問題点を指摘できるような文章構成になるよう、例を提示する。
【読む】(ワークシート) ○相手の主張を正しく捉え、問題点を指摘しながら自分の考えを持つことができる。 ☆相手の主張を正しく捉え、具体例を挙げながら問題点を指摘し、自分の考えを持つことができる。 [具体的な生徒の姿] △文章が書けない。→交流シートや例を確認させながら、文章を考えさせる。 △反論に説得力がない。→なぜそのような考えに至ったかを説明させ、補足しながら付け加えさせる。 ○反論の文章が書けている。→具体例を挙げながら書けるとよいことを伝え、付け加えさせる。		
・同じ人へ反論した人と、作文を交流する。		・交流の中で自分にはなかった視点を得られたら、メモをするよう指示する。
[振り返り] ・振り返りを書く。	5	・動物園のあり方について、考えたことやわかったことをまとめさせる。

[成果]

- ◎一人に絞らず、三人の意見の「良い点」「悪い点」を考えたことにより、それぞれの意見を交流でき、思考の広がりにつながった。
- ◎文例が使いやすかったので、文章を書くのが苦手な生徒も反論文を書くことができた。交流の際の比較のしやすさにもつながった。
- ◎同じ人に反論した者同士で交流させたことにより、自分と友達との反論の視点の違いに気付いた。

[課題]

- 「反論」しなければならないということで、三人の意見の悪いところを見付けるという、ネガティブな課題だった。「だれの意見を支持するか」という前向きな課題を設定してもよかった。
- 具体例が思いつかず、困っている生徒が多かった。事前の付箋を書く段階で、具体例も考えさせておいてもよかった。
- 全体で考えたことを共有する場がなかった。教師を媒介として、生徒が1時間でどんなことを考えたかを確認する場があってもよかった。



# 社会科の実践 I

平成30年10月12日（金）第5校時  
1年1組

## 授業の視点

既習事項を活用して各時代別にまとめたことをグループ内で出し合い、自分なりの視点で大観させたことは、生徒が歴史的事象の特色について考え、表現するのに有効であったか。

1 単元名 「古代までの日本」「中世の日本」  
～飛鳥時代から鎌倉時代までの歴史の流れでとらえよう～

2 考察

(1) 生徒の実態 ～略～

(2) 教材観

本単元は、学習指導要領の歴史的分野の内容「(1) 歴史のとらえ方 ウ 学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる」を受け、「(2) 古代までの日本」のイ、ウおよび「(3) 中世の日本」アの学習のまとめとして設定したものである。また新学習指導要領の歴史的分野「B 近世までの日本とアジア」「(1) 古代までの日本 イ (イ) 古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現すること」および「(2) 中世の日本 イ (ア) 武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して事象を相互に関連付けるなどして、アの (ア) から (ウ) までについて中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること」とを関連付けたものである。

本単元では、飛鳥時代から、奈良、平安、鎌倉時代までの歴史を一区切りとして学習する。それらの学習を生かして、各時代の歴史的事象の特色を学習課題に沿って時代ごとにまとめ、他の時代との共通点や相違点などに着目させながら考察し、文章にまとめたり、友達に分かりやすく伝えたりするなど表現の仕方を工夫させるとともに、各時代の特色を大観させることで歴史的事象のより深い理解につなげ、我が国の歴史を大きな流れでとらえさせることを目的としている。

本単元の導入段階では、各時代の特色を究明するために、生徒の疑問や調べたいことなどから学習課題を設けることで、意欲的な学習につながると考えられる。また本単元では中世の鎌倉時代までの学習を含めている。飛鳥時代から鎌倉時代にかけては、各時代の為政者とその政策や、文化、人々の暮らし、産業の発達、外国とのかかわりなどの移り変わりがとらえやすく、共通点や相違点も見つけやすいと考えたからである。また、生徒にとっても学習課題が設定しやすく、かつまとめやすいのではないかと考えられる。各時代の特色を大きくとらえ、文章にまとめたり、友達と意見を交流したりする活動を通して、生徒に思考力、判断力、表現力を養えるとともに、多くの歴史的事象をただ単に覚えるのではなく、歴史的事象の意義や影響、関連性など、より深い理解と定着を図れるのではないかと考えた。

本単元のような学習は本学級の生徒にとっては初めてであるが、新学習指導要領でも求められる、「歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能」が身に付くとともに、「多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力」「思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力」が身に付くのではないかと考え、本単元を設定した。

(3) 教材の系統

《小学校》

＜6年＞

(1)イ 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子、貴族の生活について調べ、天皇を中心とした政治が確立されたことや日本風の文化が起ったことが分かること。  
ウ 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて調べ、武士による政治が始まったことが分かること。

《1年》

＜歴史的分野＞

(2) 古代までの日本  
イ 律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを通して、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開したことを理解させる。  
ウ 仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを通して、国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解させる。  
(3) 中世の日本  
ア 鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解させる。

### 3 指導の方針（◇は道徳教育に関わる方針）

- 生徒が興味関心をもち、多面的・多角的に歴史的事象を考察できるよう、事前の教材研究によって、意義ある多くの資料を準備したり、補助的な資料や本などを教室に用意したりしておく。
- 生徒の気付きや思いを大切に、意欲的に歴史的事象に迫れるようにする。
- 生徒が思考し、表現する時間を十分確保できるように、ワークシートを準備し板書にとられる時間を少なくする。
- 生徒の思考を深めるため、学習の場を“個人→グループ→学級全体→個人”といった流れにする。
- 学習して分かったことや自分の成長などが実感できるように、振り返りの時間を確保する。
- 机間支援を通して、学習に集中できない生徒や遅れがちな生徒への個別指導を行う。
- 本単元では、意欲的な学習活動となるように、生徒の調べたいことや疑問を出させ、ねらいに即した学習課題を設定できるよう支援する。
- それぞれの学習課題について「飛鳥」「奈良」「平安」「鎌倉」の4つの時代に分け、それぞれ調査担当の生徒を予め決めておき、責任をもって学習できるようにする。
- 学習課題について個人でまとめる際に、調べる視点を与え、課題解決につながるようにする。
- 学習課題についてまとめたことをグループで大観させる際には、付箋やグループのまとめ用のワークシートを使い、生徒が考えを出し合いながら共通点や相違点などに着目して特色がまとめられるようにする。
- 本単元の最終的なまとめでは、各学習課題ごとにまとめたことを大観し、歴史的事象の意義や影響、関連性などに気付かせ、歴史的事象の特色のより深い理解につなげ、歴史を大きな流れでとらえさせる。
- ◇一人一人の考えのよさを皆で共有し、尊重できるように、生徒のつぶやきにも耳を傾け、賞賛したり板書したりし授業で紹介する。(A-3)

#### <校内研修とのかかわりから>

- 本校の社会科の学習では、「課題の解決に向けて、習得した知識や技能を活用し、自分の考えや調べたことを分かりやすく表現したり、まとめたりできる生徒」を目指している。
- これまでの歴史学習のまとめとして本単元を設定し、今までの学習で身に付いた知識や技能を活用して学習課題を解決し、歴史的事象についての理解を深め、歴史の大きな流れをとらえる場面として設けている。(場面の工夫)
- 生徒は自分が担当する時代について、今までの学習を通して身に付いた知識や技能を活用してまとめ、グループでまとめたことを出し合い、各時代を比較したり関連付けたりしながら共通点や相違点などを整理することによって、歴史の大きな流れを大観し、歴史的事象の意義や影響、関連性などの特色について、理解がより深まるようにする。(方法の工夫)

#### 【授業中における生徒指導】

##### ①共感的な理解ができる学級づくりへの配慮

- ・友達の発言を最後までしっかりと聞かせるとともに、どんな意見でも認め合える雰囲気をつくる。

##### ②自己存在感を与える指導

- ・生徒が考えを発表する際には、理由や根拠を明らかにさせ自信をもって意見を交流できるようにする。

##### ③自己決定を与える場

- ・考える時間を十分確保したり、発表する機会を多く設けたりし、生徒が自己決定し自己を発揮できる場を与える。

##### ④人権教育との関わり

- ・生徒の指名の際には、呼称を付ける。
- ・友達の考えを尊重できるように、意見を十分に聞かせ、共感や質問などできるよう促す。

### 4 目標

各時代の歴史的事象の特色を共通点や相違点などに着目して多面的・多角的に考察させることを通して、歴史的事象の意義や影響、関連性などを理解させ歴史の大きな流れをとらえさせる。

### 5 評価規準

#### 【社会的事象への関心・意欲・態度】

- 各時代の歴史的事象の特色を共通点や相違点などに着目して意欲的に考察し、歴史的事象の意義や影響、関連性などを理解したり、歴史を大きな流れでとらえたりしようとしている。

#### 【社会的な思考・判断・表現】

- 各時代の歴史的事象の特色を多面的・多角的に考察し、歴史的な意義や影響、関連性などについて

自分なりの考えをもち、適切に表現している。

**【観察・資料活用の技能】**

○写真や年表、絵巻物、文書資料、図、グラフなどのさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択し読み取ったり、文章や表などでまとめたりしている。

**【社会的事象への知識・理解】**

○各時代の歴史的事象の特色やそれらの意義、影響、関連性などを理解し、歴史の大きな流れをとらえている。

6 学習計画および評価計画（全5時間予定：本時は4時間目） ○おおむね満足 ☆十分満足

学習活動	時間	評価項目（評価方法）	評価の観点			
			関	思	技	知
<b>1 学習課題をつくろう</b> ○今までの学習を振り返って、調べたいことや疑問を出し合い、学習課題を決める。 ○調べ方やまとめ方について知る。 ○グループを作り、各時代の担当者を決める。	1	○興味・関心をもって意欲的に調べようとしている。 ☆見通しをもって意欲的に調べようとしている。 （観察、発表）	○			
<b>2 課題について考えよう 1</b> ○課題（政治）について既習事項を確認し、グループで出し合う。 ○各時代ごとの特色を比較したり関連付けたりし共通点や相違点などをまとめる。	1	○各時代の特色を比較し、共通点や相違点などについて読み取っている。 ☆各時代の特色を比較したり関連付けたりし、共通点や相違点などについての確に読み取っている。 （観察、発表、ワークシート）			○	
<b>3 課題について考えよう 2</b> ○課題（文化や暮らし）について既習事項を確認し、グループで出し合う。 ○各時代ごとの特色を比較したり関連付けたりし共通点や相違点、移り変わりなどをまとめる。	1	○課題を解決するための資料を集め共通点や相違点、移り変わりなどについて読み取っている。 ☆課題を解決するための適切な資料を集め、共通点や相違点、移り変わりなどについての確に読み取っている。 （観察、発表、ワークシート）			○	
<b>4 課題について考えよう 3</b> ○課題（外国とのかかわり）について既習事項を確認し、グループで出し合う。 ○各時代ごとの特色を比較したり関連付けたりし、共通点や相違点などに着目しながら自分が考えたことを表現する。	1 本時	○各時代の「外国とのかかわり」の特色について、共通点や相違点などに着目しながら考え、表現している。 ☆各時代の「外国とのかかわり」の特色について、多面的・多角的に考え、分かりやすく表現している。 （観察、発表、ワークシート）		○		
<b>5 まとめよう</b> ○3つの学習課題の特色について、グループでまとめたことを大観し、歴史的事象の意義や影響、関連性などを考える。 ○分かったことを図や年表でまとめる。	1	○学習したことを図や年表でまとめ、歴史の大きな流れを理解している。 ☆学習したことを図や年表で分かりやすくまとめ、歴史の大きな流れを理解している。 （観察、発表、ワークシート）			○	○

7 本時の学習

(1) ねらい

各時代の「外国とのかかわり」の特色について、自分なりの視点をもって考え、表現することができる。

(2) 準備

- ・教師 グループ用ワークシート、付箋、マーカー
- ・生徒 教科書、資料集、地図帳、用語集、ファイル、個人用ワークシート

(3) 展開

過程	学習活動	時間	学習の支援及び留意事項
導入	<p>○前時までの復習をする。 ○本時の学習課題について理解する。</p>	3	<p>○本時の学習課題や学習の仕方などについて説明する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">各時代の「外国とのかかわり」について、どのような特色があるか考え、話し合おう</p>
展開	<p>○自分の担当になっている時代の特色をまとめたものを、グループで出し合う。</p> <p>○各時代ごとにまとめたことを大観しながら、特色について考える。 (個人 → グループ)</p>	10  20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめてきたことは付箋に書かせてあるので、それをグループ用のワークシートに貼り付けさせながら、調べてきたことの説明をさせる。(各時代の特色が見やすいよう、付箋の色を時代ごとに分けてある。)</li> <li>・自分が担当した時代でなくても、特色に不足があれば付け加えても良いこととする。</li> <li>・さまざまなかかわり方があるので、グループで付箋を貼り直させたり、付け加えさせたりしながら、かかわり方を整理する時間を確保し、考えをもちやすくする。</li> <li>・前時までに「共通点」「相違点」「疑問」「予想」「移り変わり」「前の学習とのかかわり」という視点を与えているので、本時ではその中から、自分なりの視点をもって考えをまとめられるようにする。</li> <li>・自分の考えの根拠も発表できるようにさせる。</li> </ul>
<p><b>【思考・判断・表現】</b> (観察、発表、ワークシート)</p> <p>○各時代の「外国とのかかわり」の特色について、共通点や相違点などに着目しながら考え、表現している。</p> <p>☆各時代の「外国とのかかわり」の特色について、多面的・多角的に考え、分かりやすく表現している。</p> <p>[生徒の反応 C] ・何も書けない。 ←支援：共通点や相違点などの考える視点を改めて確認させる。今までの学習を教科書、資料集、ファイルなどから振り返らせる。</p> <p>[生徒の反応 B] ・自分なりの考えを書いている。 ←支援：別の視点からも考えさせたり、疑問や予想を書かせたりする。発表の仕方も考えさせる。</p> <p>[生徒の反応 A] ・前時までの学習を生かし、多数の視点から考えたり疑問や予想などを書いたりし、考えたことを分かりやすく表現している。 ←支援：できていることを賞賛し、疑問の解決への助言をしたり、予想が正しいかを調べさせたりする。</p>			
	○発表する。	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの話合いでは記録係と発表者だけ決め、司会は決めず、自由に意見交流ができるようにする。</li> <li>・早く話合いがまとまったグループは、分かりやすく発表ができるよう工夫させる。</li> <li>・発表の際は、グループ用のワークシートを使い発表させ、根拠となっている資料や理由を明確にさせる。</li> <li>・グループの発表の後、発表されたことに対してク</li> </ul>

			ラス全体でも検討する時間を設ける。
終 末	○本時の振り返りをする。 【生徒の反応】 ・時代は違うのに、いろいろな共通点があることが分かった。 ・歴史の流れや特色が分かった。 ・中国とはかかわりが深いことが分かった。 ・以前調べた文化の特色も「外国とのかかわり」と関連がありそうだ。	5	・振り返りでは、本時の学習で分かったことや友達と意見交流して分かったこと、疑問などを書かせる。

### 【成果と課題】

#### 〔成果〕

- ◎歴史を大観させる単元設定が有効であった。生徒が今までの学習内容や調べてきたことをもとに考え、説明し、まとめている姿が見られた。事象を比較し、関連や原因を考えるなど、深い学びにつながった。
- ◎ワークシートの工夫や付箋を利用したまとめの仕方などの工夫があった。

#### 〔課題〕

- グループ内での話し合いは活発であったが、それを文章にわかりやすくまとめて発表するところまでつながらなかった。難しい課題だった。
- 振り返りの時間の確保をし、板書をわかりやすく工夫する。

# 数 学 科 の 実 践 I

平成30年7月19日(木) 第2校時  
1年1組

—— 場面や方法の工夫(視点) ——

多様な計算方法が考えられる課題を設定し、同類項をまとめて確認する場面を設定したことは、文字式の有用性を考えるために有効であったか。(場面の工夫)

## 1 文字と式

## 2 本時のねらい

文字式を使って図形の周りの長さ表すことを通して、文字式の有用性を考えることができる。

## 3 展開

学習活動	時間	学習の支援及び留意事項
1. 復習問題を解く。	10分	・文字式の計算の復習問題を解かせ、計算方法の確認と習熟を図る。
2. 課題1 1辺が3cmの正三角形を図のように重ねていきます。正三角形を3枚はり合わせたときにできる図形の周りの長さを求めましょう。		
3. 課題を解く。	3分	・解き方を確認する。 ・枚数を増やし、課題2につなげる。
4. 課題2 1辺が3cmの正三角形を図のように重ねていきます。正三角形をn枚はり合わせたときにできる図形の周りの長さをnを使った式で表してみましょう。		
5. 個人→班→全体 周の長さの求め方を考え、多様な考え方を見出す。	15分	・ワークシートに一つの考え方だけではなく、別の計算方法も考え、図に計算方法が分かるように書き込みをさせる。 ・班で意見交流し、考え方を共有すると共に、さらに別の計算方法はないか考えさせる。 ・指名発表をすることで、全体で計算方法を共有する。
6. 出てきた式を比較し、気付いたことを発表する。	12分	・様々な考え方があることを確認させる。 ・比較させることで、式を計算すると同じ式となることに気付かせ、式の表現のよさを実感させる。
7. 本時の振り返りをする。	10分	・自分の説明や友達の説明から学んだことや、文字式を使うと異なった形の式で出てきても同じ式にできることなど、本時の学習をまとめさせる。
<p>【技能】(ワークシート) (○: B規準, ☆: A規準)</p> <p>○多様な文字式で表せることを理解し、文字式で表すことの有用性を考えることができる。 ☆多様な式で求めても、同類項をまとめれば形の異なる式も同じ式になるなど、文字式の有用性に気付いている。</p> <p>〔具体的な生徒の姿〕 &lt;生徒への支援&gt;</p> <p>△文字式の有用性に気付けない。 → 多くの枚数や、複数のパターンに着目させる。</p> <p>○解き方を見ながら解くことができる。 → 二つの方法を比べさせ文字の良さに気付かせる。</p> <p>☆同類項をまとめ有用性に気付いている。 → 賞賛し、発展課題に取り組ませる。</p>		

## 4 成果と課題

〔成果〕

- ◎難易度の高い問題であったため、知識を最大限活用することができた。
- ◎復習を授業の最初に取り入れたことで本時の活用に繋がった。
- ◎多様な考え方があっても、整理すると1つの式に行きつくことを、感じ取ることができる課題であり、全体での共有も有効であった。

〔課題〕

- 個人で考える時間をもっと取れるとよかった。
- 考えることを細分化し、焦点化することで時間に軽重をつけられるようにする。

## 数 学 科 の 実 践 Ⅱ

平成30年11月12日（月）第4校時

場面や方法の工夫（視点）

2年1組

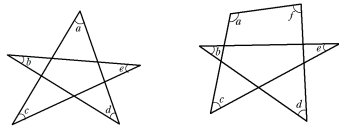
多様な考え方で説明できる課題を設定し、個人→班→全体で考えて意見交換したことは、図形を考察する力を高める上で有効であったか。（場面の工夫）

1 テーマ いろいろな図形の角の大きさ

2 本時のねらい

多様な考え方ができる課題に取り組みさせることで、既習事項を活用して図形を考察できるようにする。

3 授業の流れ

学 習 活 動	時間	学習の支援及び留意事項
[課題提示] ・前時までの復習をする。 ・めあてと課題を把握する。	10	・今まで学習した定理を復習し、定理の確認と習熟を図る。
めあて：いろいろな図形の角の関係について考えよう。		
右の図において、印をつけた角の大きさの和を求めなさい。 また、その求め方を説明しなさい。		
		
[課題追究Ⅰ] ・授業プリントの課題を解く。 （個人→班→全体）	20	・図の中に補助線を引いたり、今まで学習した形を見つけたりさせる。 ・図形の性質を活用して、角を集めたり移動させたりさせる。 ・班で意見交流させ、自分の考え方を伝えたり他の考え方を確認したりさせる。 ・班でまとめた意見を全体で発表させ、考え方を共有させる。
[課題追究Ⅱ] ・演習プリント（本時の課題の類題）を解く。 （個人→班→全体）	15	・補助線や角など、思いついたことはすぐに図に書き込ませる。 ・授業プリントで分かった性質を使ってもよいことを伝える。 ・班で意見交流させ、解き方が分からなかったものは再度考えさせる。 ・机間指導しながら、答えの正誤を伝える。 ・解答を配布し、全体で考え方を共有させる。
<b>【数学的な見方や考え方】（観察・ワークシート）</b> <span style="float: right;">（○：B規準、☆：A規準）</span> ○いろいろな図形の角の大きさについて、既習事項を用いて説明できる。 ☆いろいろな図形の角の大きさについて、既習事項を用いて複数の考え方で説明できる。 [具体的な生徒の姿] <span style="float: right;">&lt;生徒への支援&gt;</span> △全く手がつけられない。 → 補助線や今まで学習した形を意識させ、書き込ませる。 △答えは分かったが説明できない。 → 既習事項を確認させ、どこで用いているのか考えさせる。 ○1つの考え方で説明できる。 → 班の中で自分の考えを伝えさせたり、他の考え方がないか探させたりする。 ☆複数の考え方で説明できる。 → 賞賛し、他の課題に取り組みさせる。		
[振り返り] ・分かったことを整理する	5	・自分の説明や友達の説明から分かったこと、気付いたことをまとめさせる。

4 成果と課題

[成果]

◎本時の学習に必要な知識を授業の初めに確認することで、知識を活用する素地ができた。

◎図形の既習事項や等式の性質が活用できる課題だったので、生徒の興味関心が高められた。

◎個人では解決できなくても、班で意見交流することで解決に近づけた。

[課題]

●プリントをまわしてみるなどの具体的な指示やヒントがあると、図形に含まれる形が見付きやすかった。

●班での交流に時間を割いてしまったため、全体交流の時間が不十分だった。課題の難易度が高いため、追及する課題を絞ってもよかった。

●ゴールのイメージをつかめていない生徒が多かったため、先に答えを示してから考えさせるという方法もあった。

## 授業の視点

アルミニウムや水銀について考えさせる課題(活用の場面)を設定したことは、金属の特徴をより深く理解させる上で、効果的であったか。

- 1、テーマ 「金属の性質 電導性」
- 2、本時のねらい 金属の性質(電導性)について、理解することができる。(知識・理解)
- 3、展開

学習活動	時間	学習への支援・留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の学習内容の提示</li> <li>・ 実験</li> <li>・ 知識の確認</li> </ul>	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時のテーマ「金属の性質その2」の記入。</li> <li>・ 「金属光沢」について前時の復習。</li> <li>・ 鉄や銅には電導性があるかを発問し、簡単に挙手で確認。 (両方通す・鉄だけ通す・銅だけ・両方通さない)</li> <li>・ 理由があれば簡単に説明させる。</li> <li>・ 生徒を集め、導通テストの使い方を説明、各班に配布し、実験させる。 銅を数種類、鉄を数種類配布し、各自で確かめさせる。自分で持っている金属などでも確かめさせる。</li> <li>・ 金属の特徴について、電導性を板書し、プリントに書かせる。</li> </ul>
<b>課題1 (アルミニウム)は、電気を通すと思いますか？</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題に対する自分の考えを書く</li> <li>・ 実験</li> <li>・ 結果の確認</li> </ul>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アルミニウムの例として、1円玉を提示する。</li> <li>・ 理由も含めて考えるように促す。</li> <li>・ 挙手させ、それぞれの理由を述べさせる。 「通さない」：鉄や銅に比べて軽いから。1円玉は通さない感じがする。アルミニウムは金属ではない…など。</li> <li>・ 「通す」：金属光沢があるから。金属だから。アルミ缶を磨いて…など。</li> <li>・ 「通さない」が0のときは、軽さ・1円玉の安さについて教師のほうから揺さぶりをかけてみる。</li> <li>・ 前時でアルミ缶を磨いてピカピカにさせていることなどを思い出させる。</li> <li>・ 簡単にそれぞれの考えを確認してから、実験の準備をする。</li> <li>・ 1円玉・アルミホイール・アルミ缶・アルミの棒などを配布、各自で実験をする。</li> <li>・ 結果を簡単にまとめさせる。</li> </ul>
<b>課題2 (水銀)は金属だと思いますか？</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題に対する自分の考えを書く</li> <li>・ 演示実験</li> <li>・ 結果の確認</li> </ul>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水銀を提示し、考えさせる。理由も含めて考えるように促す。</li> <li>・ 「金属だと思う・思わない」に挙手させ、それぞれの理由を述べさせる。</li> <li>・ 「金属光沢がある、重い、水銀という字から…」などの理由が出され、金属であるという考えが多くなるだろう。「銀が水にとけたもの」というような間違った考えも予想される。水銀が純物質であると認識することは難しいことなので、あえてそのような考えを否定しないで、今後の学習で確認していきたい。</li> <li>・ 「水銀は液体だよ」ということを強調し、生徒の考えを揺さぶってみる。</li> <li>・ 「どうすれば金属だと確かめられるか」と問い、「電導性を調べる」という考えを引き出す。</li> <li>・ 生徒を集めて、演示実験を行う。試験管内の水銀に100Vテスターを接触させる。数回くり返し、電導性があることから金属であることを確認する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 振り返りをする</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読み物資料を配布、範読する。</li> <li>・ 「今日の授業でわかったこと」を振り返りとして書かせる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【観点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水銀は電気を通したので、金属である。</li> <li>○ 金属は電気を通す。</li> <li>☆ 金属光沢、電導性があれば(電気を通せば)、金属である。</li> </ul> </div>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数人に発表させる。</li> <li>・ プリントを回収する。</li> </ul>

## 4、成果と課題

## 〔成果〕

- ◎電導性を確認するための方法を多様に用意することで、金属と通電の関係を身近なものとし、金属が様々な場所で使われていることを理解できる。
- ◎意図的な発問により、活用につながり金属についての深い理解に有効であった。
- ◎身近で金属として認識しにくい物を取り扱うことで、生徒に揺さぶりをかけ知識を活用しやすい工夫につながった。

## 〔課題〕

- 仮説や予測を立て、既習事項から実践できる研究方法を選び、計画を立てて実験してみるという流れも、理科はあってもよいのではないか。



## 理 科 の 実 践 Ⅱ

平成30年7月9日（月）第4校時  
3年1組

### 場面や方法の工夫（視点）

- 無性生殖と有性生殖の染色体の受け継がれ方の違いについての考えを深めるために、
- ①既習事項である無性生殖も有性生殖も行う生物（イチゴ）を例に挙げて考える場面を設定したことは有効であったか。（場面）
- ②全体で課題を共有したのち、個別→班ごと→全体で意見交換したことは有効であったか。（方法）

1 テーマ 無性生殖と有性生殖の染色体の受け継がれ方

2 本時のねらい

無性生殖と有性生殖について、既習事項からそれぞれの生殖において染色体がどのように受け継がれるかを考えることができる。

3 授業の流れ

学 習 活 動	時 間	学習の支援及び留意事項
[課題提示] ・課題をつかむ	10	・学習した無性生殖、有性生殖について想起させ、染色体の受け継がれ方にはどのような違いがあるか疑問をもたせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">                         無性生殖と有性生殖では、染色体の受けつがれ方にはどのような違いがあるのだろう。                     </div> ・無性生殖の染色体の受け継がれ方について、体細胞分裂を想起させ、染色体が複製されて2等分されることを図を用いて確認する。 ・有性生殖における染色体の受け継がれ方について、無性生殖と同じではないことを全体で確認する。
[課題追究Ⅰ] ・有性生殖について考える	10	・無性生殖を説明したときと同じ図を用いて、親と子の染色体の数をそろえるにはどうしたらよいかと発問する。 ・有性生殖では、必ず生殖細胞をつくることを想起させ、生殖細胞の染色体がどのようになっているか考えさせる。 ・有性生殖では、生殖細胞をつくる時に染色体の数が半分になる減数分裂について伝える。
[課題追究Ⅱ] ・お互いのよさを活用した例を考える	25	☆無性生殖も有性生殖も行う生物（イチゴ）を例に挙げて、「それぞれの生殖をどのように活用しているか」と発問する。 ・それぞれの生殖について、染色体が受け継がれたときに起こる相違点について、全体で確認をする。 ・「この相違点によって、どのような点で都合がよいか」について、個別に考える時間を設ける。 ・班ごとに話し合い、無性生殖、有性生殖のそれぞれ活用できるところをまとめさせる。 ・班ごとに考えたことを発表しあう。
[振り返り] ・分かったことを整理する	5	・学習をして、分かったことや気付いたことをまとめさせる。 <表れてほしい生徒の記述> ・無性生殖も有性生殖もよいところが色々なところに活用されている。

**【思考・判断・表現】**（ノート、グループ活動） （○：B規準、☆A規準）

○染色体の受け継がれ方による違いを、イチゴの例を用いて説明することができる。

☆染色体の受け継がれ方による違いを、他の生物を例に挙げて説明することができる。

**【具体的な生徒の姿】**

△イチゴの例を説明することができない。 → 染色体の意味やそれぞれの生殖の特徴を再確認する。

○イチゴの例は説明することができる。 → このような方法を使うと、他の生物はどうなるかと発問する。

☆他の生物についても説明することができる。 → どのような生物に活用するとよいか考えさせる。

4 成果と課題

【成果】 ◎具体的な例示（イチゴ）があったため、意見交流がしやすかった。

【課題】 ●前時までを想起させる場面に時間をかけすぎてしまった。内容の精選が必要である。

# 英語科の実践 I

平成30年10月26日(金) 第5校時  
1年2組

## 授業の視点

電話での会話という場面設定においてカレンダーを用いたり、会話で使う表現を黒板に提示したりしたことは、生徒の意欲を高め、既習事項を使って会話をするために有効であったか。

- (1) ねらい 電話での会話に特有なあいさつや表現などを使って、電話で相手を誘うことができる。【外国語表現の能力】  
 (2) 準備 教科書、フラッシュカード、タイマー、CD、ワークシート、学習カード  
 (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	学習への支援及び留意点
1 導入 (1) あいさつ  (2) 新出単語の発音練習  (3) Warm-up (チャンツ) リズムに合わせて、英語の発音練習を行う。	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>一緒に挨拶をし、日付・天気などをたずねて学習への意欲を高める。</li> <li>新出単語が定着するよう、フラッシュカードを用いて繰り返し発音練習を行う。</li> <li>大きな口を開けて、はっきり発音するよう助言する。</li> </ul>
2 展開 (1) 本時のめあての確認  (2) 電話での会話に特有な表現を使った活動 ① 会話の流れを確認する。 ② 発音練習をする。 ③ 近くの席の友だちと対話の練習をする。 ④ 教室を歩き回り、友だちと対話をする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     A: Hello?                      B: Hello, A? This is B.                      A: Hi, B.                      B: Are you free <u>on Saturday, November 3rd</u>?                      A: Yes, I'm free.                      B: Let's <u>go to Keyaki Walk</u>.                      A: OK.                 </div>	33	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     Today's goal                      電話で友だちや Greg の都合のいい日を聞き、遊びに誘おう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>めあての提示をしておくことで、本時の最後に何ができるようになるか意識できるようにする。</li> <li>会話の流れや活動に必要な表現を黒板に掲示する。</li> <li>一通り終わったら役割を交代し、練習する。</li> <li>空いている日が異なる3種類のカレンダーを用意し、インフォメーションギャップをつくり、意欲的に会話に取り組むことができるようにする。</li> <li>相手を誘う内容はワークシートを見て選択できるようにする。</li> <li>ワークシートのカレンダーには決まった予定を書き込む。</li> <li>ペアでの会話の途中で、モデル会話を示す。</li> <li>会話中に教室の隅に固まってしまうと、進んで声を掛け合えるように助言する。</li> <li>○意欲的な取り組みや、何も見ない状態での会話をしている生徒を賞賛し、良さを広める。</li> </ul>
3 振り返り 自己評価を行う。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習カードに自己評価を記入させ、本時の活動を振り返らせる</li> </ul>
<p>【観点】 ○電話をする際の特有なあいさつや表現などを使って、電話で相手と会話をしている。                  ○何も見ない状態で、多くの友だちと電話での会話をしている。 (【関・表】 観察・ワークシート)</p>		

## (4) 成果と課題

【成果】 ○教科書で学んだことを実際に使う場面を設定したこと。

○電話での会話という場面において、一人一人に自作の電話を渡すことで意欲が高まった。

【課題】 ●基礎定着のためにも、電話での会話の基本的な形を全体で2～3回練習すると良かった。

●上手に会話している生徒を全体の前で発表させ、どんなところが良かったか考えさせる場面を設けても良かった。

# 音楽科の実践 I

平成30年9月25日(火) 第4校時  
3年1組

## 授業の視点

「春に」の曲想の表現を工夫するために、発声練習・パート練習を充実させ、細かく練習を行い、合唱をしたことは有効であったか。

1 テーマ 歌い合わせる喜びと指揮～さまざまな曲想と表現の工夫～

2 本時のねらい

パート練習や既習の発声から、曲想の表現を工夫できる。

3 展開

学 習 活 動	時間	学習の支援及び留意事項
1. 発声練習 2. 本時の学習内容の提示 ・自己目標を記入する	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢や表情に注意して歌わせる。</li> <li>子音の飛ばし方や声の響かせ方も前時を思い出させ、歌わせる。</li> <li>今までの反省から自己目標を書かせる。</li> </ul>
3. 「春に」の合唱をし、課題をつかむ  ・各パートで課題を話し合う ・パートごとに部屋に分かれ、パートリーダーを中心に練習する	20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>各パートで出た課題について、全体で共有する。</li> <li>ソプラノは家庭科室、アルトは2階多目的教室、男声は音楽室に分かれ練習させる。</li> <li>ただ一度通して歌うだけでなく、できない場所をそのままにしないように指導する。</li> </ul>
4. 「春に」の曲想表現を工夫する  ・「春に」の合唱をする ・合唱を振り返り、さらに工夫できるところがないか話し合う ・話し合ったことをもとに、まとめの合唱をする	15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>細かい点は気にせず、全体のエネルギーの流れをどの方向にもっていくかという観点で、おおまかな曲の流れを指導する。</li> <li>発声練習で気を付けていることを曲にも生かすように伝える。</li> <li>工夫できる点について、音楽を形作っている要素をもとに確認する。</li> <li>曲の強弱記号、表情記号、音の動きには必ず作者の意図や想いがあることをおさえる。</li> </ul>
5. 本時の振り返りをする 6. 次時の予告をする	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめの合唱をしたことから、自己目標に対する反省と、自分やパート・クラスに対する課題を見付けさせる。</li> </ul>

### 【観点】

(○：B規準、☆：A規準)

○楽譜から読み取れることに興味を持ち、意欲的に活動にかかわろうとしている。

☆詩の魅力や、曲の雰囲気を感じながら、表現を工夫しようとしている。

### 〔具体的な生徒の姿〕

△表現を工夫することができない → 楽譜にある強弱記号の意味を確認させる

○表現を工夫することができる → 歌詞にも注目させる

## 4 成果と課題

[成果] ◎発声練習時に大切なポイントを明確にすることで、活用に結び付けやすい。

◎パートリーダーを中心に、生徒が改善すべき所を考えられている。

◎毎時間目標や反省をし、それに対する教員のコメントから活用を促していた。

[課題] ●表現の工夫を焦点化し、習得する技能の明確化をした方がよい。

●どの状態が適しているのか実感を持たせられるとよい。

●生徒の私語を許さず、話を聴く態度の指導を徹底する。

## 授業の視点

バスケットボールにおける基本技能<1対1の攻防・ボールパッシング>をゲームの中で使えるようにするために、パスタックゲーム(活用の場面)を行ったことは有効であったか。

## 1 単元名 「バスケットボール」

## 2 本時のねらい

基本技能(1対1の攻防・ボールパッシング)をゲームの中で活用することができる。(思考・判断)

## 3 展開

学習活動	時間	学習への支援・留意点
1. ウォーミングアップを行う。	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドリブルをしながら2周</li> <li>シュート練習(5分)</li> <li>1対1でボールの取り合い 20秒 × 5セット</li> </ul>
2. 学習内容の確認		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           パスタックゲーム(ボールキープ 視野 パス コミュニケーション)         </div>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲームをする上で大切なことを確認する。</li> <li>各チームで練習をする。</li> <li>ゲームの行い方やルールの確認をする。</li> </ul>	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までに学習したこと(1対1の攻防、ボールパッシング)のポイントを、再度確認させる。</li> <li>1対1の攻防、ボールパッシングを中心に練習をさせる。</li> <li>1対1の攻防では、ディフェンスで大切なことを伝える。</li> <li>ボールパッシングでは、ボールを持っていないプレイヤーがスペースを意識して動きパスをつなぐことが攻撃につながることを伝える。</li> <li>シュートを積極的にねらうように伝える。</li> <li>ゲームの行い方やルールを確認させる。(「ワンダフルスポーツ」を活用)</li> </ul>
3. ゲーム① <ul style="list-style-type: none"> <li>3対3のゲーム</li> <li>ゲーム時間5'</li> <li>休憩時間にゲームを振り返り、ゲーム②に向けて修正点を確認する。</li> </ul> 4. ゲーム② <ul style="list-style-type: none"> <li>ゲーム①の振り返りをゲームにいかす。</li> </ul>	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>1対1の攻防やスペースを意識して動くことをゲームの中で活用するよう、様子を見ながら必要に応じて助言する。</li> <li>スペースに動くことができていない生徒には、具体的に指示を出す。</li> <li>ボールがあるところに集まり、コートを広く使うことができないことが考えられるので、視野を広くとるように伝える。</li> <li>スペースを意識して動いているかを中心に振り返るように助言する。</li> </ul>
5. 本時の振り返りをする。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習カードにあるキーワードを使い、振り返りを書くようにさせる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>【思考・判断】</b></p> <p>○基本技能(1対1の攻防、ボールパッシング)をゲームで活用している。</p> <p>◎基本技能(1対1の攻防、ボールパッシング)を効果的にゲームで活用している。</p> <p><b>【評価方法】</b> 学習カード、観察</p> </div>		

## 4 成果と課題

〔成果〕◎基本技能の習得→パスタックゲーム→ゲームにすることで、基礎→活用→その活用 という形になり、より深めることができる。

◎活用を促す効果的な助言ができていた。

〔課題〕●基本技能をゲームの中で活用するという意識を生徒がもてるような工夫が必要。

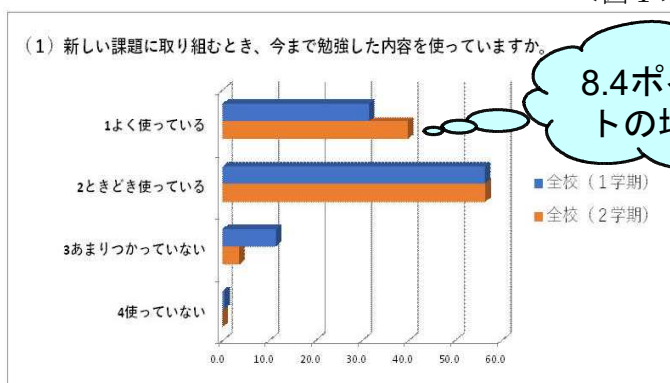
## 研究の成果と課題

### (1) 成果

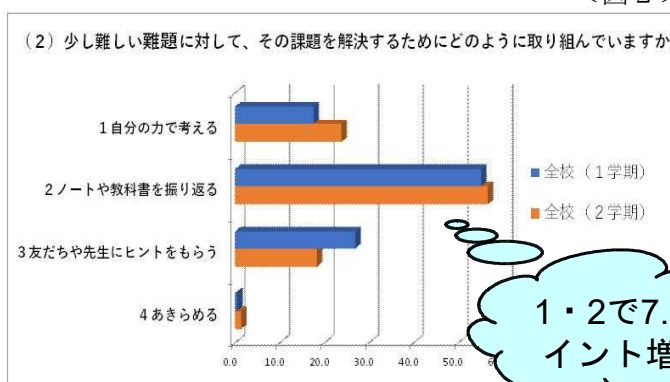
- ・導入で本時にかかわる活動を行うことが、活用に必要な知識・技能をより確かなものにするために有効であった。
- ・一人一人に自分の考えをもたせる場や時間を設けることが、協同学習での話し合いを活発にし、知識や思考力・判断力・表現力を深めることに繋がる。
- ・単元構成の中で活用する場面を取り入れたことが、知識の理解を深めたり技能を高めたりするのに有効であった。
- ・学習活動のポイントの明確化や発問の工夫が、知識や技能の活用に繋がり、理解を深めることに有効であった。
- ・一人一公開授業を参観し合い授業検討会を積み重ね、まとめたものを研修日よりして全職員に配付したことで成果と課題を共有できた。
- ・授業の流れや活用場面の設定の工夫をすることで、より深い学びに繋がった。
- ・アンケート結果（図1、図2、図3）より、教師一人一人が、活用する場面や方法を工夫するといった、活用を意識して授業を行ってきたことで、新たな課題に対して既習事項を活用し、自力で解決しようという意識が生徒に育成されたと考えられる。

～生徒へのアンケート結果～

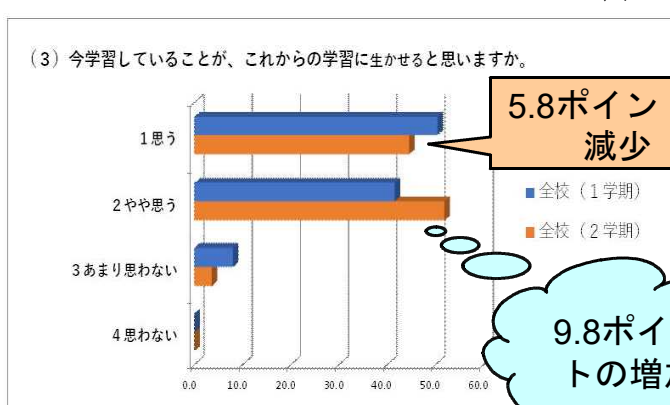
<図1>



<図2>



<図3>



### (2) 課題

- ・演習と活用の時間に軽重を付け、活用に必要な時間をより多く取れるようにする。
- ・提示する課題をより焦点化し、活用する場面を明確にする。
- ・「目指す生徒像」の実現に向けて、明らかになったことをどのように日々の授業に生かしていくか検討していく必要がある。
- ・アンケートの結果（図3）より、生徒が自ら学んだことを活用しているのではなく、与えられた状況に対して、ただ漠然と取り組んできているとも考えられる。そのため、今後は、課題に対して、自ら解決しようとする中で、既習事項を用い試行錯誤することで繋がりを意識させていくことが必要と考える。

② 生徒のアンケートより

- ・「新しい課題に取り組むとき、今まで勉強した内容を使っていますか。」という質問に対して、「よく使っている」や「ときどき使っている」という肯定的な意見が、88%から96.4%と8.4ポイント増加した。特に「よく使っている」という意見で、8.4ポイントの増加が見られた。
- ・「少し難しい難題に対して、その課題を解決するためにどのように取り組んでいますか。」という質問に、既習事項の振り返りなど、自力解決の方法を試みる生徒が72.8%から90.4%と17.6ポイントの増加が見られた。
- ・「今学習していることが、これからの学習に生かせると思いますか。」という質問に対して、肯定的な意見が41.6%から51.8%と9.8ポイントの増加が見られた。

② 生徒のアンケートより

- ・「今学習していることが、これからの学習に生かせると思いますか。」という質問に対して、「思う」が50.4%から44.6%と5.4ポイント減少した。